

福島のNPOメンバー

東日本大震災の被災地、福島県で復興活動に取り組むNPOのメンバー五人が二十七日、鯖江市杉本町の立待小学校を訪れ、復興のシンボルとしてヒマワリの種を贈った児童たちに感謝の気持ちを伝えた。

四年生八十五人は昨年、空気の浄化作用があるヒマワリを栽培。その体験を基に復興支援ソング「ひまわり」を作り、

復興支援の歌声 「勇気もらった」



ヒマワリの種を植えるNPOメンバーと児童＝鯖江市立待小学校で

三月に歌声を録音したCDと収穫した種を、全国でヒマワリを育ててもらう活動をしているNPO法人・チームふくしま（福島市）に届けた。

CDを聞いて感動したメンバーの希望で、訪問が実現。半田真仁代表（三邑）らは、児童たちに福島第一原発事故の影響で、市中心部に放射線測定器が設置され、公園に利用時間を制限する看板があるなどと、福島市の現状を説明した。

児童らは、ヒマワリの栽培過程を順に発表し「ひまわり」を力強く合唱。メンバーは「心を耕してもらい、勇気と元気をもらった」「生の歌声を聴き、あらためて感動した。この気持ちを福島に持って帰りたい」と語り、児童らと固い握手を交わした。その後、児童らとともにヒマワリの種を鉢に植えた。

加賀川侑生君（九）は「福島の人たちを応援している。復興に向けて頑張ってほしい」と話していた。（古谷祥子）

鯖江・立待小訪れ交流